

札幌学院大学

コラボレーションセンター年報

Collaboration

Center

第二号

2016-2017

可能性を秘めた空間



コラボレーションセンターが産声を上げたのは2年前の2015年2月のことでした。札幌学院大学の「イキイキの可視化」を目指して開設されました。English Loungeで話し合う学生の姿や休み時間にSGU coffeeでくつろぐ学生の姿もすっかり定着しました。コラボレーションセンターが主催するプロジェクトも学生発案プロジェクトも進化し続けています。

コラボレーションセンターでは季節ごとのイベントを充実させるため、新たに七夕や正月にちなんだ催し物を行いました。学生スタッフが中心になって作成した70周年動画は、文泉会からも高い評価を得ています。2015年度も好評だった謎解きゲームを2016年度の新入生オリエンテーションに取り入れた学部もあります。

2016年度は6つの学生発案プロジェクトが実施されました。2015年度からの継続の「松山大学」との学生交流促進プロジェクト、音声認識を利用した情報保障プロジェクト、携帯用アプリ開発プロジェクトに加え、新たにTSGプロジェクト(トランシルヴァニア大学との交流促進プロジェクト)、若者と社会をつなぐ選挙に活気をプロジェクト、子ども食堂「ここなつ」プロジェクトが採択されました。これらのプロジェクトにより、学内の利便性が高まっただけでなく、大学間交流や地域社会との交流、そして国際交流が促進されました。

SGU Lunch Time Talkも始まりました。昼休みにエントランスを使って様々なプレゼンテーションができる企画です。教員と学生の発表があっただけでなく、劇団四季とのコラボレーション企画も実施されました。

コラボレーションセンターは可能性を秘めた空間です。スタッフも多様な使い方を提案していく所存ですが、これを読んだ皆さんからもこれまでにない使い方を提案していただきたいと思います。

コラボレーションセンター長 佐々木 冠
(経営学部経営学科 教授)

イキイキの可視化

ENTRANCE

エントランスは学生と教職員が集い、知的な好奇心を刺激する場として利用されています。

昨年度に引き続き、今年度も昼休みに「English Lounge」を開催しました。また、2016年6月からは様々な教員が自分の伝えたいテーマで学生に話す新企画、「SGU Lunch Time Talk」を木曜日に開催しました。

他にも学生発案プロジェクトの発表や、Collaboration Centerのイベントにも使われました。

English Lounge

平日の昼休みにエントランスにて、英語に親しむ目的で行われている取り組みです。

英語の講義以外でも、より気軽に楽しく英語に触れたいという人のためにつくられた場所です。

英語担当教員・国際交流担当・学生有志を中心に運営しており、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、英語に触れる時間と空間が提供されていました。

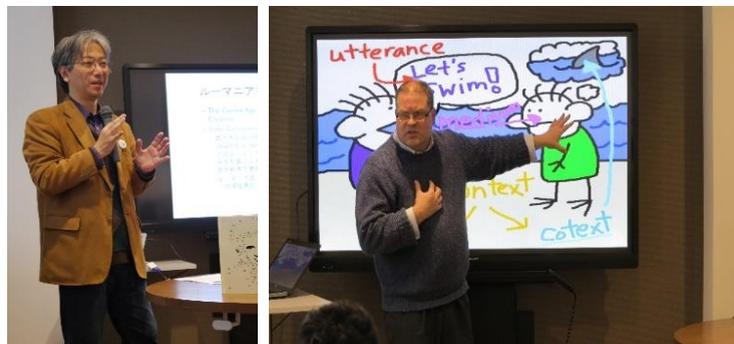


SGU Lunch Time Talk

ランチタイムトーク

教職員が伝えたいトピックを話す企画です。ここで扱われるテーマは、教員の研究テーマはもちろんですが、研究から派生したトピックや、教職員が関心を持って取り組んでいること、学生に是非伝えたいこと、など様々な内容を取り上げます。

教員は、研究等について語ることを通して教員のイキイキを可視化し、高等教育機関らしさをアピールします。学生はそれらから刺激を受け、知的な好奇心を動かします。教員のみならず、学生および職員が特定のテーマで語り、新しいつながりを作り出す場とすることが目的です。



SGU Lunch Time Talk (第3回目)は岡崎 清先生 (人文学部英語英米文学科教授) と劇団四季様のコラボ企画「劇団四季ミュージカル『ウィキッド』の魅力」

SPACE1 -PC ROOM-

この部屋には、iMac15台とモノクロプリンター1台、カラープリンター1台が配置されており、事前・事後学修に最適です。



SPACE2 -PROJECT LOUNGE-

この空間は、講義やプロジェクト活動、課外活動のミーティング等に使用することができます。

奥にある相談カウンターでは、学生スタッフが勤務しています。各施設・設備の使用方法やプロジェクト活動に関する相談をはじめ、各窓口や関連機関への橋渡しを行っています。



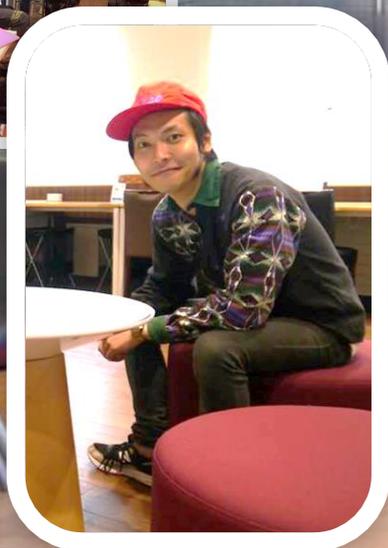
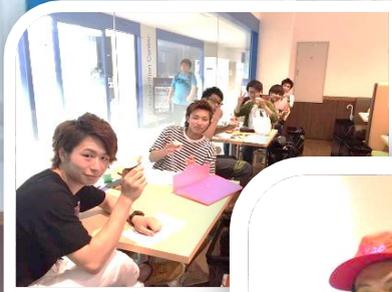
この空間は協調的な学びの過程を通じて学生のコミュニケーションや創造性を引き出し、学生自らが主体的に知を構成することを促す場です。そのため、グループ学習のための椅子（テーブル付き）、ICTを活用した教育法改善を図るための機器を備えています。

講義や演習、就職セミナー、勉強会など様々な用途で使うことができます。



SPACE3 -SEMINAR ROOM-

カフェをイメージした空間で、学生の多様な学修ニーズに対応し講義の空き時間にも立ち寄ることができる場所として利用されています。多様なスタイルの椅子やテーブルを配置し、個人学修とグループ学修が融合したスペースです。毎日学生達で賑わっています。



本学のOBで、フギウギ専務でお馴染み上杉周大さんが、大学祭で行われた「SGU LIVE 2016」の終了後にSGU cofficeに立ち寄ってくださいました。

SPACE4 -SGU coffice-

学生発案プロジェクト

「学生発案プロジェクト」は、大学生活でやってみたいこと、日ごろから考えているアイデアや、熱い想いに、最高50万円を支援する札幌学院大学のプロジェクト支援事業です。

2015年度に採択された3つのプロジェクトに加えて、2016年度は新規プロジェクトが3つ採択され、合計6つのプロジェクトが活動を行いました。各プロジェクトで情報発信サイトを立ち上げて、日々の活動状況などを配信することが、義務づけられています。

アイデアや熱い想いに最高50万円を支援！

札幌学院大学

学生発案プロジェクト

募集

2016年度分
2016年2月22日17時
募集締切

＜説明会を開催します＞
1月20日(水) 12:30～13:00
1月21日(木) 12:30～13:00
2月1日(月) 16:00～16:30
Collaboration Center SPACE3にて

募集要項は、情報ポータルで公開中！

気になる人は参加してみよう

Collaboration Center
Sapporo Gakuin University

プロジェクト審査会

審査会は、プロジェクトメンバーからのプレゼンテーションと審査員からの質疑応答で行われます。プレゼンテーションタイムでは、各プロジェクトのメンバーからプロジェクトへの熱い想いが語られていました。

なお、審査員はコラボレーションセンター所員と学生スタッフ代表数名が務めました。

子ども食堂「ここなつ」プロジェクト

プロジェクトの学生と佐々木センター長。

プロジェクト報告会

2016年度のプロジェクト報告会は、2月23日にエントランスで開催しました。各プロジェクトには、事前に「プロジェクト報告書」および「プロジェクト収支報告書」の提出を求めています。

情報保障プロジェクト

アプリ開発プロジェクト

TSGプロジェクト

(TSG=Transylvania & Sapporo Gakuin)

【概要】

ルーマニアから学生を招いて、国際交流を通じて、異文化を学び語学への意識を高めること、多様性を認識し、理解することを目的としたプロジェクトです。今回は3名の学生がルーマニアから本学に来校した。

【プロジェクト報告】

「学内授業参加」「ルーマニア料理試食会」「札幌市街研修」「小樽市内研修」「北星大学付属高校訪問」「白石先生の自宅訪問」「仮正月体験」を行った。札幌市街研修ではカラオケやラーメンなど日本の文化に触れてもらった。ルーマニアの学生らが帰国したあとも連絡を取り続けており、彼女らから「是非、このプロジェクトを夢ある若者のために続けてほしい」という言葉をいただいた。なにより、彼女らが日本語の教科書を買って帰り勉強するほどに、今回のプロジェクトが彼女らの人生を変えたということが一番の成果といえる。

今後の課題としてあげられることは、一部の人だけではなく、プロジェクトに関わるメンバー1人ひとりが高い意識と自主性を持ち、多様性を認識し理解する力を養えられるようにすることである。

【採択金額 497,672円】



ルーマニア料理試食会の様子



学内授業参加の様子



代表者からの一言

ルーマニアという国の名前を聞いて「え？どこ？」と具体的なイメージが湧かない人がほとんどだと思います。実は東ヨーロッパにある国なんです。ヨーロッパというのは一括りに語られがちなのですが、実際には多様な国や文化で構成されているんです。よく「留学したい！違う国に行きたい！」という人の多くは異なった文化や価値観・考え方に触れて、自分を変えてみたいなんて思っているんじゃないでしょうか。そんな人にとって、このプロ



ジェクトは非常に有益だったわけですね。別にアメリカやイギリスじゃなくても、多様性を認識して考えることはできるんです。ルーマニアの言葉や文化は全く日本と異なります。そして、とても魅力的なんです。そんなことを少しでも多くの人に伝えられたのではないのでしょうか。

【代表者】
英語英米文学科 3年 中井 俊さん



代表者からの一言

今回のプロジェクトを一年間やってきて本当に楽しかったです。何より私たちは札幌学院大学「初」の出来事を成し遂げたことが感慨深いです。

札幌学院大学に期日前投票所を設置しようと動いたのは約2年前のことでした。そこから色々な仲間が集まって成功を収めることができてあの時には考えられなかったです。このプロジェクトのメンバー



とお手伝いしてくれた教職員の方々、そして期日前投票所設置に向けて協力してくれた江別市選管の職員の皆様には本当に感謝しております。

投票所は今後も設置される動きはあるかと思いますが札幌学院大学を今後も政治に関心が高い大学になっていけるようによろしくお願いします。

【代表者】
法律学科 4年 下道 丈一郎さん

若者と社会をつなぐ選挙に 活気をプロジェクト

【概要】

2016年の参議院選挙時の期日前投票の時期に、「大学構内に投票所」を設置することにより“直接的な”若年投票率の向上を図り、以下の2点を目的として活動した。

- 1) 大学内に投票所を置くことによる、“直接的な”若年投票率の向上
 - ・物理的に投票に行きやすくなる。
 - ・学生に選挙を身近なものとして感じてもらう。
- 2) 投票所を置くことに関連した啓発による“間接的な”若年投票率の向上

【プロジェクト報告】

2016年7月8日に札幌学院大学SGUホールにて、期日前投票所を設置した。投票者は合計108人であり、そのうち学生だと思われる人数(18歳~22歳)は34人となった。

複数のメディアに取り上げられるなど、幅広く広報活動を行った。TVhにて事前取材1件、HTBにて当日取材1件、北海道新聞4件、江別市立江陽中学校新聞掲載1件の計6件の取材を受けた(教育機関を除く)。その他には北海道選挙管理委員会と事前啓発を実施したり、継続的な投票所設置の合意をするなどの活動を行った。

【採択金額 250,000円】



期日前投票当日の様子



北海道選挙管理委員会と事前啓発活動の様子



子ども食堂 「ここなつ」プロジェクト

【概要】

大麻銀座商店街のお店からの協力を得て、週に1度のペースにて、地域に住む子どもたちに夕食支援を行う。夕食支援のみならず、学習支援、遊びを通じて、子どもたちの居場所づくりを地域とともに活動する。ちなみに「ここなつ」とは「子ども、交流、仲良く、つながる」の頭文字です。

【プロジェクト報告】

子ども食堂は、2016年4月から約35回の活動をしており、参加人数は徐々に増えてきている。

今回、食材代と場所代はプロジェクトの資金を使用しなかった。これは、当日活動できるだけ資金と食材、場所を確保できたからである。

これから子ども食堂「ここなつ」は、学生主体であるという動きから、地域主体として考え方を改め、活動していく方針である。

【採択金額 260,704円】

代表者からの一言

4月当初は、何をしようのかわかりませんでしたが、約35回の活動を通し、参加者や学生の数も増え、形になってきました。

この活動を続けていると、様々な方との出会いがあり、知見が広がりました。また、子どもや地域の大人との交流で、私たちの名前を覚えてくださり、お話をしに来てくれること、帰りに、「楽しかった!また来るね!」と子どもに言ってもらえた時には、「やっつけて、良かったな」と思います。

広報として、Facebookに毎週の活動を載せているのでご覧いただければ、「ここなつ」の日常を見ることが出来ます。



最後に、これを見た皆さん大人、学生を問わず、ぜひ活動の見学にいらしてください。私たちはいつでも参加をお待ちしております。

【代表者】
臨床心理学科 2年
佐賀 京介さん



地域の子どもたちと遊んでいる様子



小樽のキダーリープへ玩具を買いに行った時の様子



国内協定校「松山大学」との 学生交流促進プロジェクト

【概要】

本大学の国内協定校である松山大学(愛媛)との学生交流促進プロジェクト。お互いの大学や地域の魅力について、プレゼンテーションを行い、お互いに国内留学について考えるきっかけを作る。松山大学訪問後は、プロジェクトの報告や松山大学、四国地方の紹介をCollaboration Centerなどで行う。

【プロジェクト報告】

松山大学との学生交流促進プロジェクトは昨年度から継続して行っているものである。

今年は初めて、愛媛県の松山大学から学生が北海道を訪れ、懇親会を行った。

10月21日から24日まで松山市と高知県の土佐市に行った。松山大学の水野先生の案内で榊神社や松山城などを観光したり、松山大学に訪問したりして、交流を行った。お互いの住んでいる地域や方言についてのプレゼンを行った。また、土佐市役所にも訪問し、土佐市長・副市長にお会いした。

【採択金額 311,906円】

代表者の一言

本プロジェクトは、国内協定校である松山大学との交流を行っており、今年で2年目になる。

昨年度は松山大学の学生が北海道に来ることはなかったが、今年度は、初めて9月に北海道にきて交流を行った。台風の影響で残念ながら大学での交流を行うことは出来なかったが、良い交流となった。10月に松山を訪れた際には、松山大学で互いの地域について紹介したり、あるテーマについてグループワークをしたりと、交流を深めることができた。また、同時進行で行っていた江別市大学連携事業の一環で、事前に江別副市長にお会いし、四国に行った際は高知県の土佐市役所を訪れ、土佐市長・副市長にお会いし、お話ししてもらった機会を設けていただいた。初めてのことでばかりが多く戸惑いもあったが、一つのことに向かって進んでいく中で、仲間との絆も深まっていったと思っている。来年度以降もこの活動がずっと継続していきますように……



【代表者】
法律学科 3年
中川 菜里さん



松山大学にて合同ゼミの写真



10月に松山を訪問した時の様子を発表する中川さん

音声認識を利用した 情報保障プロジェクト

【概要】

現在、学内において聴覚障がいを持つ学生に対して、ノートテイクとパソコンテイクによる情報保障をおこなっているが、テイクを行う支援学生のスキルも必要であり、支援学生の要請も課題になっている。本プロジェクトでは、パソコンやスマートフォンなどの音声認識機能による情報保障を学内で行えるよう設備と運用の確立を目指す。

【プロジェクト報告】

今年度の活動成果は主に①音声認識ソフトと情報保障ソフトの組み合わせの決定②使用する周辺機器の決定の2点である。

①について前期に全15回の生活構造論B(内田先生)で、被支援学生に情報保障を行いながら、購入したマイク及びiPod touchを使用して実験を行った。前期のこの取り組みにより、音声認識ソフト「UDトーク」で文字化を行い認識結果に修正を加えることで、PCテイクと同等の情報保障が可能であることを確認した。修正ソフトについては当初「UDトーク」の修正ソフトを使用していたが、「まあちゃん」という要約筆記ソフトを使用することで、辞書登録などのPCテイクの利点を取り込むことができるため有効であると確認した。

②使用機器について、同じく生活構造論Bで実験を行い予算で購入したiPod touchとハンズフリーマイクを接続して実験を行った。実験より上記の機器を使用することで教室内のハンズフリーで講義ができ身動きをなど教員(内田先生)にかかる負担を最小限にして音声認識を導入できることを確認した。

【採択金額 87,873円】



アプリを使用した字幕作成



音声認識のデモンストレーションの様子



2016年度
採択

2015年度から継続

代表者からの一言

我々のプロジェクトでは前年度より継続する形で、スマートフォンアプリの音声認識機能を利用した聴覚障害を持つ学生への支援方法を模索する活動を行ってきました。前年度と比較してみると、より実践的な活動を行うことができたのではないかと感じております。具体的には講義内での実使用というような本格的な現場での実験を、そして我々が今年度3つの学会に参加し、発表することで双方向的に知識を送受信することができました。これらを総合すると、来年度以降につなげるのできる有意義な1年を過ごすことができましたように思います。これも

学生発案プロジェクトや法学部・皆川雅章教授をはじめとした周囲の方々の協力あつての成果と感謝しております。皆様ありがとうございます。

【代表者】
法律学科 3年
上原 亮太さん



2016年度
採択

2015年度から継続

代表者からの一言

我々携帯アプリ開発プロジェクトはその名の通り携帯アプリ等の開発を行い、そのアプリを中心に情報ポータル等の情報をより効率的に利用できる環境の構築を目指して活動しています。このプロジェクトは前年度からの継続のため、今年度は前年度の反省をいっている面で活かすことが出来ました。具体的には開発環境を統一し開発効率を上げる、大学との協力で電子証明書を取得しセキュリティの向上を行う等です。

前年度からの学び以外にも、プロジェクトを通じてプログラミングをはじめとした様々な情報知識を得られ、報告会や収支報告を通じて学生が主体として活動するこのプロジェクトならではの経験もでき、大きく成長することが出来良かったです。

【代表者】
法律学科 3年
曾根 寛至さん



携帯用アプリ開発プロジェクト

【概要】

本学学生が必要とする情報(情報ポータル、Moodle、本学ホームページなど)を統合的に閲覧できる機能、携帯端末の位置情報を利用したキャンパスの案内機能、これらの機能がある携帯端末上で動作するアプリの開発を目指す。

【プロジェクト報告】

2015年度に購入したサーバ用PCに安定運用のための拡張を行った。停電や雷等で起こるサージ電流からPCとその中のデータを保護するためにUPSを導入したこと、データを保護するためのバックアップ装置の導入である。バックアップはOSの機能を利用し、1日1回自動的に外付けのSSDにバックアップされるように設定した。サポート教員の協力を得て電子計算機センターにサーバ証明書を発行してもらい、これを通信に利用することによって、サーバと携帯アプリの通信を暗号化した。

サーバ上で動作するWebスクレイピングプログラムを改善した。このプログラムは、本学情報ポータルに与えられたアカウントを用いて自動的にログインし、指定されたお知らせの情報を取得するものである。この成功により、他の様々な情報取得するための基盤が構築できた。また、本番稼働に向けた性能評価を行い、この結果を次年度と同プロジェクト申請に反映させた。

アプリ開発について、iOS端末やAndroid端末で動作するアプリを同時に開発できる開発環境を導入し、実機で動作するアプリの試作版の作成に成功した。このアプリではWebスクレイピングサーバを利用し、情報ポータルからお知らせの情報を取得できることを確認した。

ビーコンについて、基本的機能の確認を行った。2016年度の活動で具体的なビーコンの学内への設置を検討した。

【採択金額 459,971円】



サイズが500円玉2枚程度のビーコン



iPhone上で動作する接続確認用プログラム

コラボレーションセンター 主催プロジェクト

コラボレーションセンターでは、中期計画において「すべての学生が有意義な学生生活を送れるようにするために、学生生活への不適応を解消し、イキイキと活躍できる“居場所”の提供」を掲げています。

2016年度事業計画では、(1) 学生の交流を促す企画、学生生活上の不安解消、学生生活適応のための企画を実施、(2) 課外活動応援や大学オリジナルのLINEスタンプの制作など、帰属意識を高める企画を実施、(3) 情報ポータルやfacebookページを通じて、在学生への日常的な情報発信、(4) 季節の行事の実施を通して、学内の雰囲気作り、の4つをコラボレーションセンター主催プロジェクトとして実施すべく、学生スタッフを含むコラボレーションセンター運営委員会で検討・実施しました。

70周年記念動画

札幌学院大学は、2016年6月15日で学園創立70周年を迎えました。コラボレーションセンターは70周年の歴史を振り返る動画を制作しました。学生スタッフは動画制作のヒントを得るために札幌文科専門学院第1期生であり、現在名誉教授の杉本正(87)元学長に当時の様子などをインタビューをしました。

動画はYou Tubeにアップロードされています。



こちらから動画をご覧になれます→



動画の1コマ



杉本正 元学長へのインタビュー

学園創立70周年
記念ロゴマーク



ともに歩き、未来を創る。

Walk Together

札幌学院大学オリジナル

商品開発プロジェクト

2018年の大学開学50周年にむけ、大学のオリジナル商品を企画・開発する「札幌学院大学オリジナル商品開発プロジェクト」が開始しました。商品開発に関わりビジネスを学習・実習できる良い機会であり、本学学生であれば誰でも参加することが出来ます。

これまで、河西邦人先生（経営学部経営学科教授）が中心となり、企画検討を進められ、いくつかの提案から、ハスカップを使ったパウンドケーキ「ハスカップケーキ」が選考されました。このたび試作品が完成し、学内で試食＆アンケート調査を実施しました。今後はアンケートの結果を分析し、商品化できるように検討を重ねていくとことです。



ハスカップケーキ



学生、教職員約100名に回答していただきました。

Collaboration Center主催プロジェクト

札幌学院大学オリジナル商品開発プロジェクト

参加学生募集

2015年度に試作したメロン生キャラメル

学部・学科・学年は問いません

新プロジェクト 始動

大学開学50周年(2018年)にむけた大学のオリジナル飲料品・食品を企画・開発するプロジェクトです

札幌学院大学は、今年学園創立70周年を迎え、2018年には大学開学50周年を迎えます。

今回開始するプロジェクトは、2018年の大学開学50周年にむけ、大学のオリジナル飲料品・食品を企画、開発するプロジェクトです。

本学理事長であり土産商品卸売会社の経営者である本上徳雄理事長と河西邦人経営学部教授の指導の下、飲料品・食品を実際に開発、試作（食品会社へ委託）を行います。可能であれば2017年度には本格生産、販売を行う、中期プロジェクトになります。

商品開発に関わりビジネスを学習、実習できる良い機会なので、興味のある学生は参加して下さい。グループ参加でも個人参加でも歓迎します。

プロジェクトを指導する本学教職員

学校法人札幌学院大学 理事長 井上 徳雄 (いの上 しのぶ)	
「本学理事」 取締役 本上 徳雄 (ほんの上 しのぶ)	
「本学理事」 副学長 藤田 隆雄 (ふじた たかお)	
「本学理事」 学務部長 藤田 隆雄 (ふじた たかお)	
「本学理事」 学長 藤田 隆雄 (ふじた たかお)	

札幌学院大学 経営学部経営学科
教授 河西 邦人 (にし くにこ)

6月17日(金) 12:30~ 説明会開催
(C館2階 Collaboration Center エントランスにて)
プロジェクトに参加を希望する学生、興味のある学生は、上記説明会に参加してください。

札幌学院大学 Collaboration Center



プロジェクト会議の様子



「商品開発プロジェクトに携わって」

松山大学との交流から、札幌学院大学でも学生が考えた商品を作りたい、という思いからプロジェクトが立ち上がりました。土産品卸売会社の創業会長であり、本学の井上理事長の協力と指導を仰ぎながら、商品開発を進めました。魅力ある商品開発の一端に関わり、参加学生も楽しく学習できたよかったです。

課題としては多くの学生に体験してもらえなかったことです。最終的には北海道を代表するハスカップを使用した「ハスカップ・パウンドケーキ」（通称ハスカップ）が人気投票の結果、選ばれ、洋菓子メーカーに試作して頂き、試食テストをしました。そしてオープンキャンパスの「女子カフェ」で提供してもらえ、事になりましました。今後は大学の正規教育にも取り入れて、より魅力ある大学教育へ進化と深化をさせたいと思います。

（文責：経営学部教授 河西邦人）

SGU~学長と若者言葉のコラボ~

LINE スタンプ制作プロジェクト



在学生や卒業生の本学への帰属意識を高めるツールとして活用されることを期待するとともに、流行のLINEスタンプの制作という話題性も期待して始まった、本学オリジナルのLINEスタンプ制作・提供（販売）するというプロジェクト。

第2弾となる今作は、在学生や本学への入学を考えている高校生にも広く使っていただきたいという思いから、若者言葉をテーマとして制作しました。若者言葉をテーマにしたのは「礼儀」についての講義を担当する鶴丸学長をあえて若者言葉と組み合わせることでギャップによる面白さを表現しています。

2017年2月6日より、LINEストア「クリエイターズスタンプ」で販売しています。

制作したスタンプ「SGU~学長と若者言葉のコラボ~」の一部（スタンプは全40種類）

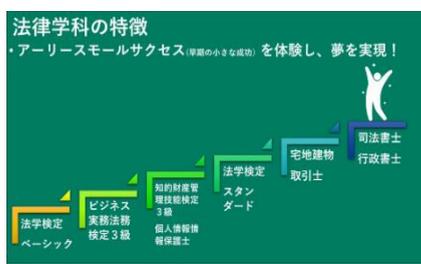
<https://store.line.me/stickershop/product/1382410>



学科紹介60秒CM

本学にある4学部8学科の学びを分かりやすく伝えることを目的に、コラボレーションセンター学生スタッフが60秒の学科紹介CMを作成しました。

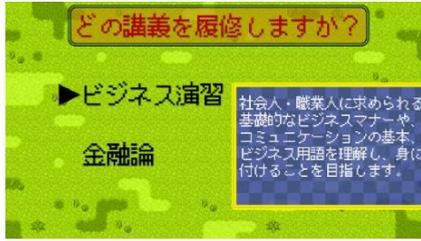
作成された動画は11月に行われた本学のオープンキャンパス(学びライブ)で上映され、高校生や保護者の方にどの学科のプログラムに参加するかを選ぶ際の参考にさせていただきました。



法律学科



臨床心理学科



経済学科



英語英米文学科



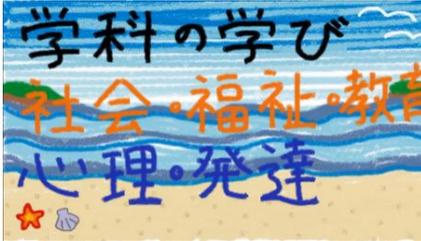
経営学科



人間科学科



会計ファイナンス学科



こども発達学科

学科・諸活動紹介動画

諸活動紹介

学内の諸活動をPRする60秒CMを文系・体育系のクラブやサークル、学内の活動に携わる学生・教職員の方に作成してもらいました。

作成されたCMは、エントランスのデジタルサイネージ(電子看板)のほか、入学式でのウエルカムタワーや保護者懇談会、オープンキャンパスなどの大学行事で上映されます。

クラブ・サークルなどの募集

60秒CM

クラブ・サークルや学内諸活動の紹介動画を募集します!

2017年 **3月1日(水)**

までにSPACE2相談カウンターに提出してください

[動画の形式]
WMV、AVI、MPEG、MP4、MOVのいずれかで
長さは30~60秒(必ず60秒以内)

[提出動画の公開]
CollaborationCenterエントランスの
デジタルサイネージで上映されます
(入学式や保護者懇談会、オープンキャンパスなどの
大学行事で上映することがあります)

←画像は昨年、Collaboration Centerが作成したものです

詳しくは、情報ポータルや学内各所で配布中の募集チラシをご覧ください

Collaboration Center



陸上部



演劇サークル 劇団サンスサン



国内協定校松山大学と高知県土佐市交流促進プロジェクト



カーリング部



軽音楽部



アメリカンフットボール部

ウエルカムアワー

コラボレーションセンターでは、入学式直後の「ウエルカムアワー」を学生スタッフが司会を務めました。このウエルカムアワーでは、学内のクラブやサークルなどの諸活動の30秒CMの上映を行いました。



司会進行を行う学生スタッフ



ボクシング部



YOSAKOIソーランサークル札幌学院大学・文京台



女子バレーボール部 紹介

女子バレーボール部



弓道部



SGU遊ベンチャー



コラボレーションセンター学生スタッフ

教職員写真展

— 大学祭で総合芸術研究会 写真部と「協働」開催 —

教職員写真展は、コラボレーションセンターが主催する写真展としては、3月の卒業フォトコンテストに続いて2回目。これまで教職員有志が独自に図書館ロビーで写真展を開催したことがありましたが、今回は大学祭参加ということもあり、総合芸術研究会写真部に協力を呼びかけ、双方の展示会場でお互いの作品を発表することとなりました。

写真展開催にあたり教職員から写真を募ったところ90点を超える作品が寄せられました。SPACE3展示会場では、これらの作品をスライドショーで投影。教室の前方・後方の壁面スクリーンに加えて、床面への投影も試みました。訪れた皆さんは、壁面と床面に次々と映し出される雄大な自然や授業風景を興味深げに見入っていました。

防火・防災月間

若者の防災に対する意識が低いと言われている。また、2016年4月14日に熊本地震があり、災害は身近に起こりうるものと少しでも感じてもらうために、防火・防災イベントを行いました。

イベントではアニメと組み合わせる説明をし、防災グッズを実際に体験する場を設け、学生に興味を持ってもらえるようなイベントを展開しました。



防火・防災月間のイベントの様子

防火・防災月間

アニメde防災 10月11日(火)
10分で防災確認 10月18日(火)
防災グッズを 10月25日(火)
使ってみよう!

～開催時間～
12:30～13:00
～開催場所～
C館2階 Collaboration Center エントランス

参加してくれた人には
抽選で防災グッズを
プレゼント!!

Collaboration Center

防火・防災月間ポスター



季節行事プロジェクト

コラボレーションセンターでは、本学学生や留学生または教職員に季節に触れられる機会を提供したいという思いから、季節行事プロジェクトを行いました。

5月

端午の節句



<寄贈者>
札幌市 佐々木 南夫 様

7月

七夕

7月7日から七夕の笹を展示しました。笹の展示に合わせ、七夕にちなんだ5色の短冊を用意し、学生に自由に願いごとを記載してもらいました。最終的に400枚を超える数の短冊が集まり、大盛況でした。



クリスマス

12月1日から全長2mものクリスマスツリーを飾りました。またSPACE2の天井や窓への飾りつけ、廊下にライトキャンドルを置いたことにより、クリスマスの雰囲気を楽しんでもらいました。

12月



3月

雛祭り

雛人形を飾る時期は一般的には2月中旬頃といわれていますが、「日本語教育・文化体験プログラム」で留学生が本学に滞在している期間に日本の文化を紹介するため、1月末から3月末まで設置をしました。



<寄贈者>
札幌市 佐々木 南夫 様
北広島市 斎藤 兼義 様



お正月

1月

コラボ神社

エントランスにてコラボ神社を設置し、絵馬やおみくじを結んでもらいました。2017年は、酉年ということもあり、ニワトリとヒヨコの形をした絵馬を用意しました。

多くの方に利用してもらえたので、学内でもお正月の雰囲気を感じられることができたのではないのでしょうか。



凧・羽子板の展示



季節プロジェクトの特別編として、凧や羽子板、百人一首などお正月にちなんだ品々がD・E館2階の廊下に展示されました。鶴丸学長が企画から展示までプロデュースをし、イベントを大変価値のあるものにしていました。

SGU Halloween Party



ビンゴゲームの様子



ジェスチャーゲームの様子



プレゼンテーションをする留学生

2016年10月28日(金)に、「SGU Halloween Party 2016」を開催しました。
 今回も国際交流委員会と協力して企画・運営し、当日出勤の学生スタッフも仮装して勤務しました。地域の協力があったおかげで2回目の開催が出来ました。
 本学学生だけではなく、海外からの留学生、他大学の学生、地域の方々、教職員などたくさんの方々にご参加いただきました。
 参加者の方々からは「楽しかった。また参加したい。」という意見が多々あり、今回も多くの方々にお楽しみいただけたようです。



経営学部 新入生学部企画

経営学部の新入生が対象ということで、経営にちなんだ問題も出題しました。初めは皆さん頭を悩ませていましたが、学生同士で協力して謎を解き合う姿が多く見られました。終わってから、各ゼミで写真を撮ったり、LINEの交換をしていたりと、楽しそうな雰囲気も見られました。

謎

解きゲームプロジェクト

コラボレーションセンターでは、大学祭やオープンキャンパスにおいて、「謎解きゲーム」を通じて、2015年度からコラボレーションセンターのPRや学生同士の交流の機会を提供してきました。

新入生で溢れるSPACE2



真剣に謎を解く新入生



説明を行う学生スタッフ



謎解きゲーム 学園創立70周年の歴史を追え！

札幌学院大学大学祭 ～青嵐祭～

6月25日に大学祭出展企画「謎解きゲーム 学園創立70周年の歴史を追え！」を開催しました。新聞社が舞台で、参加者が新聞記者となり、上司に「他の新聞社も食いついているという噂がある札幌学院大学学園創立70周年の歴史を今すぐ調べて記事にしてい！」と指令を受け、70年の歴史について記事にするという設定になっていました。

また、謎解きの難易度により「ファミリーモード」と「チャレンジャーモード」の2つコースを設け、子供連れのご家族から謎解きの上級者まで幅広く楽しめるようにしました。70周年を迎えた本学の歴史を学びながら参加者全員が謎解きを楽しんでいました。



学生スタッフから説明を受けている様子



参加者が謎解きにチャレンジしている様子

広

報活動

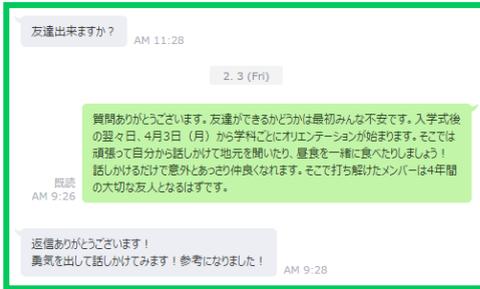
コラボレーションセンターでは広報活動も積極的に行っています。コラボレーションセンターで開催されるイベントの情報提供や、施設内の様子などをSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を利用し、運営をしています。

現在はFacebookページ（開設当初より）、Twitterアカウント（2015年11月～）、LINE@アカウント（2016年2月～）を活用し、情報を提供しています。また、今年度は年報も学生スタッフが原稿を書き、作成しました。

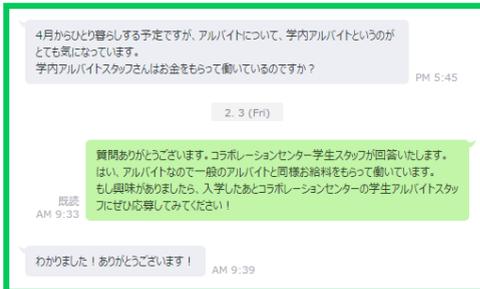
※コラボレーションセンターで運営しているSNSのアクセスにつきましては、裏表紙にQRコードなどを付けておりますので、そちらをご確認下さい。

LINE@

LINE@では、入学前の学生からの質問に学生スタッフが丁寧に回答しています。



↑ LINE@でのやり取り ↓



Facebook

Facebookでは、その日に行われたイベントやcoffeeの様子などを、学生スタッフが記事にしています。



学生スタッフによるFacebookページでの広報活動

月報

メディア掲載情報

（テレビ）
メディア掲載情報：
番組名：けいざいナビ北海道
放送局：TVhテレビ北海道
放送日：3月5日（日）
放送時間：11:30～12:00

（新聞）
『北海道新聞』（札幌圏）2016（平成28）年6月3日
「参院選2016 札幌学院大に期日前投票所」
『北海道新聞』（江別版）2016（平成28）年7月7日
「学内の投票所へ行こう～札幌学院大、学生有志ら呼びかけ～」
『北海道新聞』（江別版）2016（平成28）年10月21日
「土佐市との交流促進 札幌学院大が意欲 佐々木副市長に抱負」
『北海道新聞』（江別版）2016（平成28）年11月9日
「学長LINEスタンプに 札幌学院大が作成」
『北海道新聞』（江別版）2017（平成29）年2月25日
「松山大学と交流、子ども食堂運営 1年間の活動成果発表 札幌学院大プロジェクト報告会」

（Webサイト）
『大学プレスセンター』2/21
「札幌学院大学コラボレーションセンターが2月23日「学生発案プロジェクト報告会」を開催 - 学生のアイデアや熱い想いに最高50万円を支援」
『大学プレスセンター』2/14
「札幌学院大学がオリジナルLINEスタンプ第2弾を発売 - 鶴丸学長と若者言葉のコラボ」



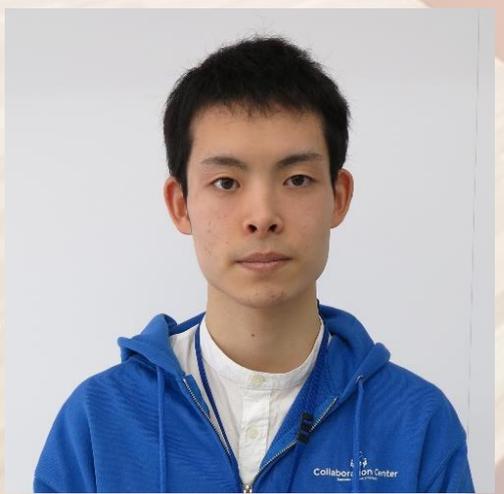
↑ 毎月発行している月報 ↓



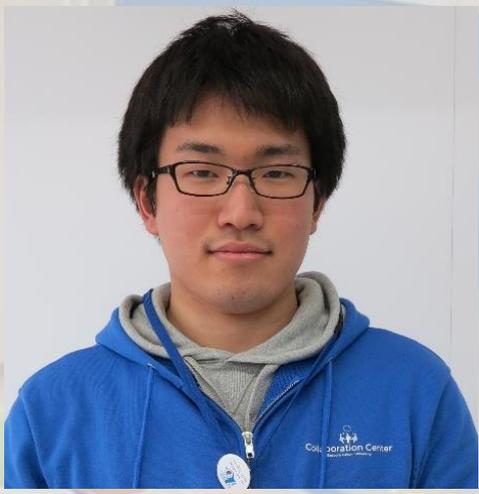
SNSによる情報発信だけではなく、紙媒体での広報活動も行ってきました。開催されたイベントや、これから行うイベントなどの情報を掲載する「月報」を毎月発行し、学内3ヶ所のサインスタンドに掲示しました。



Back Style



学生 スタッフ



学生スタッフ

学生スタッフ任命式

学長室にて2016年度学生スタッフ任命式が行われ、鶴丸学長より学生スタッフそれぞれに任命書が手渡されました。



学長より任命書を受け取る学生スタッフ



学内ワークスタディ

コラボレーションセンターの学生スタッフの雇用は、「札幌学院大学の学生力」の育成、就業力向上支援、新たな経済的支援を目的としています。

学内における教育支援活動や学生自身の社会性向上に資する活動に従事するものを「学内ワークスタディ」と定義し、コラボレーションセンターが主体となり関連規程を整備しました。

「学内ワークスタディ」とは、学生の主体性、能動性を伸ばし、就業力及び社会性の向上に資する業務を担い、教職員はその業務のなかにおいて学生を指導し、成長を促す、学内インターンシップのような位置づけです。

また、講義の合間や、講義の前後における勤務により、学業との両立が可能な（修学上の支障が生じないよう配慮された）「学内でのアルバイト」という形で、経済的事情により修学困難な学生への支援の一面もあります。



ミーティングの様子



夏用に作られたビブス



ピアサポートの様子

アクティブラーニング教室の電子黒板を使った研修



ピアサポート

ピアサポートとは、同じ立場の学生同士が協力し、支援し合うことです。ピアサポートによる学生同士の学び合い「学生がともに育つ相乗効果」の場を提供するため、SPACE2の相談カウンターで、「大学生活なんでも相談」を開始しました。

この「大学生活なんでも相談」では、学生スタッフが中心となり、相談カウンターに訪れた学生からの相談に、学生の視点からアドバイスをし、一緒に考え、問題解決や不安解消のお手伝いをすることを目的としています。

また、相談内容については、相談記録として残り、学生スタッフおよびコラボレーションセンター所員、担当事務局で情報を共有し、相談内容に応じて学生スタッフのサポートを行います。

ICTを活用した先駆的なアクティブラーニング

学生スタッフは、11月24日に学内で行われたFD研究会に参加し、ICT(Information and Communication Technology) 今までのICTに加えコミュニケーションを重視したものを活用した先駆的なアクティブラーニングを体験してきました。これからコラボレーションセンターでもアクティブラーニング力を入れていく予定なので、とても参考になる良い機会でした。



ICTを活用したアクティブラーニングの研究会に参加した学生スタッフ



Collaboration Center

Sapporo Gakuin University



<https://www.facebook.com/SGUCollaborationCenter/>



https://twitter.com/SGU_Collabo



<https://page.line.me/spv4053o>



ともに歩き、未来を創る。
Walk Together